



4 松鶴延齡図 今尾景年

対幅

大正十三年（一九二四）

絹本着色

本紙各一四六・〇×四六・九

老松に鶴という組み合わせの対幅である。「鶴は千年」とよく言うが「松寿千年」という言葉もあり、鶴も松も長寿を意味するお目出度い画題である。その気分を盛り上げるように、画面には薄く金泥が刷かれている。

今尾景年（一八四五〜一九二四）は、京都の友禅悉皆業の家に生まれ、はじめ家業の友禅図案を手がけ、後に鈴木百年に師事し円山四条派の画風を身につけた。代表作としては、精緻な筆で細かな虫や花を描写した「四時花木群虫図」（京都府立総合資料館蔵）がある。しかし最晩年、景年八十歳の作である本図にはそのような繊細さは見あたらず、むしろ肩の力を抜いて描いた作品といえる。本図は、大正十三年一月の皇太子御結婚を祝して作者より京都府知事を通じて献上された。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

福やぶござれ ― 寿ぎの美・新春に集う

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 42

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十九年一月六日発行

©2007, The Museum of the Imperial Collections